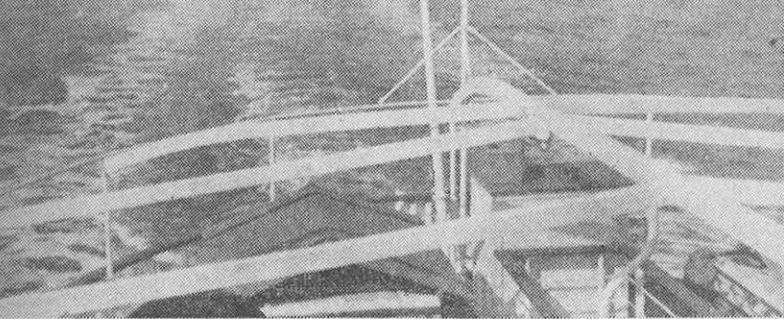


熊本から 神戸まで……

県ブラジル移住団と、ともに



——現地ルポ——

戦後、熊本県で中南米（ブラジル・アルゼンチン）へ移住した人の数は、すでに四三〇名にも達しています。

現在はおよそ月二回にわたって移住が行われています。そこでここにさる二月二日出発の移住団に同行した広報課員の手記をかゝげることになりました。（写真はあけぼの丸にて）

熊本駅のホームには、すでに見送りの人々が溢れるばかり。クリーム色に一本赤色の横線が入ったスマートな準急「ひかり」がやがて発車しようとしている。窓際に押し上って抱合う兄弟。笑い顔が次第に涙顔になる家族組。それらをよそに、ハチ切れるばかりに両手をあげて、万才を繰返す若い人々の群。

やがてゆるやかに汽車はホームを滑り出す。徹声がどつと上り、テープが交互に乱れ飛ばす。ホームの人々の姿が次第に小さく遠ざかって行く。

二月二十二日快晴

午前一〇時。

熊本海外協会で壮行会が開かれる。現地呼寄せ七名、コチア産業単独青年移住六名、家族移住五家族、計三十六名である。若い人が圧倒的に多くしかも中には、二人の花嫁さんがいる。壯途を祝して乾杯。一瞬みんな表情が緊張する。



前途を祝して乾杯……★

車窓のふるりの風景もこれまでと、霞たなびく阿蘇の裾野に見入るもの。子供たちは嬉しそうに車内を駆けめぐる。若い人々のたまりては、もう熱心な議論が始まっている。

正午、熊本を発った「ひかり」号は、途中中坊中と豊後竹田に停車しただけで三時には別府に着いた。別府港の関西汽船事務所に荷物を預け、五時半の出航時間までを、近くの指定旅館でみんなくつろぐことになる。それぞれ入浴をしたり、

健康ノート



赤痢はきたない病気で……

きたない管です。赤痢患者ということからはつまり大便を食ったという事なのですから。赤痢菌が出るところは、全く尾ろうな話ですが、患者や保菌者の大便の中にしか出たはこないのですから。チフスなら血液にも小便にもありますが、この病菌だけは、たった一つの大腸という出口しかないのです。しかも、次に外の人達があわれにもこの病気にかかって行く。まさしく、誰か患者の大便を食ったことになるのです。入口は、うまい食物を食べる口より外にないのです。本当にきたない話ですが、今年も春先から県下にも沢山の患者が発生しています。そこで赤

痢を防にはどうしたらよいか、その注意すべき点をここに掲げて見ました。

○先づ手を洗う
便所から出た時、食事前に手を洗うこと。

○蠅をなくする
水洗便所にすれば蠅はできないが、せめて便所のくみ取り口だけは、きちんとして蠅が生れないようにする

○薬の素人用法は絶対にいけない
お腹の具合がおかしいときは素人治療をやめて医師に相談する

○「腹八分に医師いらす」と言葉があるが、暴飲暴食をしないようにしよう

眼を守るう……

「眼は心の窓」といわれていますが、眼ほど私達の心の動きを正確に表現する器官はないようです。又、眼が不自由なことほど不幸なことはないでしょう。例えば、眼やにが出たり、差明があつたりしても、どれだけ仕事の能率をさまたげるかわかりません。失明したら、映画

演劇は勿論新聞を読むことさえできません。健康な眼なくしては、美術を鑑賞したり、スポーツを楽しむことは不可能です。春先から暖かくなるにつけ、ホコリや汗等で不潔になりやすいので特に眼の衛生に注意していただきたいことは次のとおりです。

○顔や手は常に清潔に
○手拭い、ハンカチなどは清潔なものを用い、各自専用とする

○読書は正しい姿勢で明るい光の下で
○眼にも時々休養を与える

○屈折異常のあるときは専門医の検査をうけ、適正な眼鏡を用いる

○栄養の合理化と適度な運動
○眼の病いは軽ういちに治療を受ける

○読み物は印刷が鮮明で読みやすく、内容は健全なものを選ぶ

○危険な作業では保護鏡を用いる

○摂生と規則正しい生活
(衛生部)

でしよう。どのみち、この問題は夫婦で考えて実行しなければならぬことですから、そのご夫妻と協力してお姑さんを説得する場合も生れてくるわけです。このほか、奥さん方だけの座談会があちこちの地区で持たれているようですが、なかなかハナシの解るお姑さんも多いと構想からどうも具合が悪くてやりきれぬという声も出てくるように、実情に合った指導も考えなければならぬと思っ

ています。次に、意外なところから横やりも入ってきます。それは産婆さんですが、家族計画が子供をつくらせないというふうな偏見にたっているところからきているようにですね。そうではなくて、子供は生きたい時に生むというのが目的で決して生ませないようにすることがないので、この点、産婆さんも本当の理解が欲しいところです。

と家族計画の合理性を強く力説します。テールの上にあつた工場のPR紙「水保工場新聞」をとりあげてみますと、毎号ごとに、家族計画についての説明や活動の状況、計画表や座談会の記事などが載っており、工場全体に家族計画の問題が大きくクローズアップされて職場の話題をさらっているようです。

「まだまだ活動の浸透について多くの隘路をもっていますが、要するに、無関心な人を一人でも多く引き寄せるためにあらゆる形をPRをしてゆきたいと思えます。そして、なるべく適切なチャンスをごちから与えて、その便宜をはかってゆく考えです。」

と緒方さんはこう結んだ。

(広報課)

買物をしたり、便りを書いたり結構、忙しいばかりである。

五時半いよいよ出航である。二、〇〇〇トン級の「あけぼの丸」はすでに棧橋に横づけになっている。乗船。指定の客席にみんな旅装をとく。一応はつとしたところである。

さいわい天候に恵まれ、海は夕風である。思ったより船内は揺れないが、室温が高いため汗ばむ人が多い。上甲板に立つて風に吹かれると、もはや島影もなく暗い海面に潮路が白く目に映るだけである。再び船内に入る。再び夕飯を食

べながら、お互いにいろいろと話題が出る。中南米へ移住する同じ仲間とはいえ、それぞれに事情（次頁へ）

さようなら、元気でナア……★

